

平成 22 年度第 2 回三条市教育事務点検評価委員会会議録

- 1 開会宣言 平成 22 年 8 月 20 日（金） 午前 9 時 30 分
- 2 場 所 三条市役所栄庁舎 2 階 201 会議室
- 3 出席者 雲尾周委員長、村田洋子委員、若杉利行委員
- 4 説明のための出席者
松永教育長、古川教育部長、池浦教育総務課長、久住子育て支援課長、高橋学校教育課長、嘉代小中一貫教育推進室長、金子生涯学習課長、遠藤教育総務課長補佐、阿部教育総務課庶務係長
- 5 傍聴人 なし
- 6 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 教育に関する事務の点検及び評価について
 - (3) 閉会
- 7 会議の経過及び結果
 - (1) 開会
松永教育長から、次のあいさつあり
おはようございます。本当に毎日暑い日が続いております。その暑い中を今日は朝早くから御出席いただきまして大変ありがとうございます。先般 7 月 13 日の第 1 回のこの会におきまして、本当に皆様から貴重な御意見や御提言を頂きまして、それに基づきまして各担当の方でそれぞれ修正を加え、あるいは書き加えるという形で、皆様方のところに今日は御報告申し上げたいと思っています。何とぞよろしくお願いいたします。
 - (2) 教育に関する事務の点検及び評価について
 - ・本日の会議の進め方について
池浦教育総務課長から説明あり
 - ・事後評価シートについて
 - 「1 幼児教育・学校教育の充実」(2)～(6)
 - 「2 学校と家庭・地域との連携の推進」(5)～(7)について
高橋学校教育課長から説明あり

(雲尾委員長)

学校教育課担当部分につきまして御説明いただきました。いかがでございましょうか。

4 ページの「主な事務事業」の①の最後の文章に「教育」を入れてという修正がございましたが、ほかにごございますでしょうか。

(村田委員)

「評価」に「第一指標（達成できず）と第二指標（達成）から総合評価を C とし

た」と冒頭に書いてありますが、報告書と一緒に評価シートが付いているのであればそれが何であるかよく分かると思うのですが、シートは付けるのか。付けないのであれば、第一指標と第二指標が何かを少し加えないと、このままの表記では不足なのではないかと思う。

(高橋学校教育課長)

私も説明しないと分からないと思いました。申し訳ありません。

(池浦教育総務課長)

昨年は確かにシートを付けない状態で報告書だけで公表になりました。御指摘いただいた点は私もそう思います。対応が間に合わずに申し訳ありませんでした。

この辺を御指摘いただき分かりやすい形に直していきたいと思っていますので、御意見を承りたいと思っています。

(雲尾委員長)

シートは付けないということですか。

(池浦教育総務課長)

はい、付けないです。

(村田委員)

そうしたら、何が達成できなかったのかを簡単に加えておかないといけないのではないかと思います。

(雲尾委員長)

今の点につきましては、第一指標、第二指標の内容も書いていただいで分かるようにするという事で対応していただきたいと思います。

(村田委員)

「内容」に「公開授業」とありまして、「主な事務事業」の③には「授業公開」という言葉が出てきています。同じように使っているのでどちらかにした方がいいのではないかと思います。

それから、「主な事務事業」③の、「授業公開（小学校・中学校で開催）を行い、小中のお互いの良さや問題点を確認し合いながら」とありますが、その前に「協議会では」と一言入れたらいかがでしょうか。そうすると文として分かりやすい文になるのではないかと思います。

それから5ページの「評価」の解説の一番下の「魅力ある授業が行われることが期待できる」とありますが、期待できるではなく、語尾は「行われるようになっていく」とか「なってきた」とか、その方がいいかなと思いました。

続いて「今後の方針」の中ごろ①～④がありますが、その下の「小中一貫教育の先進校を見ると」は、「見ても」ではないかなと思います。

細かいことをすいませんが、以上です。

(雲尾委員長)

まず最初「主な事務事業」の③の2行目、ここだけ「授業公開」、ほかは全部「公開授業」になっていますから、「公開授業」として統一性を持たせるということがあります。

次に小中の前に「協議会では」という文言を入れるという点ですね。

もう一点のその次の行、「実施した。（訪問回数 99 回）」となっていますが、この句点と訪問回数 99 回の順番を入れ替えていただいて、「実施した（訪問回数 99 回）。」としてください。

5 ページの最後の段落、4 行目のところです。「中堅研修を行ったことを通して」、これはくどいので、「なお、新人研修・中堅研修により」と。

村田委員の御意見としては「行われるようになった」ということですが、なったという事実があるのかが問題でして、「期待できる」とはまだなっていないということなのか、「なった」と書いてしまっているのかどうかなのですが、いかがでしょう。

(高橋学校教育課長)

「なってきた」でお願いします。

(雲尾委員長)

「なお、新人研修・中堅研修により若手教員の授業力が向上し、魅力ある授業が行われるようになってきた」と変えるということですね。

そして「今後の方針」④の次の行、「小中一貫教育の先進地を見ると」を「見ても」に変えるということですが、よろしいでしょうか。

(高橋学校教育課長)

はい。

(雲尾委員長)

続きまして、6、7 ページでございます。2 か所ですね。修正意見が反映されておきませんが反映させるということで、「学ばせる」が「学ぶ」、「評価」の「教職員の」の次に「よい学習だったかどうかの評価は」という文言を入れるということです。そのほか御意見はございますか。

(村田委員)

「主な事務事業」①の 1 行目ですが、「三条の刃物ものづくりの」とありますが、「刃物（ものづくり）」なのか「刃物づくり」なのか。「今後の方針」には「刃物づくり」という言葉が出てまいりますが、どちらかにしなければと思います。

(雲尾委員長)

「刃物（ものづくり）」という表現が多いですが、①の 1 行目に「刃物ものづくり」があり、今後の方針の中に「刃物づくり」があるということですね。それにつきまして、いかが修正されますか。

(高橋学校教育課長)

カッコを付ける形に直します。

(雲尾委員長)

①は「三条の刃物（ものづくり）」とすると。「今後の方針」のところはどうですか。これはこのままですか。「和釘や刃物づくりをしたりする」は。

(高橋学校教育課長)

これでいいと思います。

(雲尾委員長)

これはこのままでいいですか。

(村田委員)

はい。

(雲尾委員長)

そのほかはいかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

(若杉委員)

何かこの刃物ものづくり教育と科学教育が一つの枠の中に入っているというのが、別々のものが一つの中に入っているような気がしてならない。全体的に見ると表題は「刃物（ものづくり）教育、科学教育の体験学習」の方がいいのではないかと思います。刃物づくりの体験をする教育、科学教育の科学に接して体験をする教育なら、「体験教育の実施」の方がじっくりくるような気がするのですが、どんなものでしょうか。

(高橋学校教育課長)

前回から、この2つの関連をお問いになっておられます。共通性がないというお問いだと思います。それで私たちとしては、共通のものはないと答えしております。ただ、ここは三条だけがやっているといってもいいような特色ある教育活動というくりです。そういう意味でここに2つ異質なものが入っていると。

(雲尾委員長)

「目的」は「児童生徒の郷土愛を育成すること」ということで、刃物（ものづくり）教育については伝統もあって分かるわけですが、科学教育が直接的ではないのですよね。②にありますように、「科学への興味関心を掘り起こして理科の大好きな子どもを育て」までは科学教育なんですけれど、そこから先の「将来の三条市の地場産業活性化に貢献する子どもを育むことを目指した」という、このつながりがちょっと回り道なので、分かりにくいということかと思います。

(高橋学校教育課長)

この表題は変えることはできないのですよね。

(池浦教育総務課長)

市の行政評価項目ではないので、委員会の方で変えた方がいいということであればそれでいいと思います。

(高橋学校教育課長)

そうしたら「刃物（ものづくり）教育と科学教育の実施」について、この関連性として何かくるものがあるかという御指摘だと思うので、少し検討させていただくということでよろしいでしょうか。

(雲尾委員長)

そうですね、今すぐ出そうもないですね。

(若杉委員)

この科学教育でいろいろな体験をさせる中で子どもたちの意見などが評価として上がってくるでしょうし、そうすると評価しやすい。

(高橋学校教育課長)

できれば「刃物（ものづくり）教育、科学教育、特色ある教育の実施推進」というふうにしていただけると三条らしさが出てくるのかなと私は思っています。

(雲尾委員長)

そうですね。「特色ある教育の推進」だけだと内容が分かりにくいと。刃物教育、科学教育を表題に出すと長くなるということで、どういう表現にするか検討が必要だ。とりあえず検討するというのでこの場は進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(若杉委員)

はい。

(雲尾委員長)

続きまして1-(4)「食育・体力づくりの充実」でございます。修正意見は反映されております。そのほか御意見はございますでしょうか。

「評価」の2行目、8項目あって句点で区切られてまして、それがカッコで閉じられていますが、このカッコの内容が前の文章につながりますので、8項目のすぐあとからマルを「ソフトボール投げ」のカッコ閉じの後に移していただいて、前の文章に入るようにしてください。

そのほかはよろしいでしょうか。

続きまして、「いじめ・不登校対応の充実」でございます。これにつきましても修正は図られておりますが、何か御意見はございますか。

(村田委員)

文言で、11 ページの一番上の行の「三条市SSN事業を」とありますが、ここは「は」の方がいいんじゃないでしょうか。発展的に統合したこういう部会になったのですよね。SSN事業がこういう名称になって、そしてサポート会議の回数が増えたということなのだろうと思いますので、やはり「を」ではない方がいいと思います。

(雲尾委員長)

まずSSN事業自体、どこにも説明がありませんね。さっきのTT授業と同じように、SSNは何の略かということは少なくとも入れる必要があります。

そして「統合した」というのは、これは何かと何かを統合したということではなくて、事業内だけを統合したということですか。

(古川教育部長)

ほかの事業と統合したということです。三条市の子ども・若者総合サポートシステムの大きな事業の中に、その生徒指導関係の一つとして組み入れたということです。

(雲尾委員長)

子ども・若者総合サポートシステムというのは元々あって、それにSSNを入れたということですか。

(古川教育部長)

新しくサポートシステムを作って、その中にSSNを問題行動部会として統合したということです。ほかにも、虐待や社会などの別の部会があります。

(村田委員)

今おっしゃったようなこととお書きになった方がいいのではないのでしょうか。S

S N事業は子ども・若者総合サポートシステムに統合し、問題行動部会という名称のものを作ったというわけですね。

(高橋学校教育課長)

はい、そうします。

(松永教育長)

文法的にいうと、もし「は」と主格にS S N事業を置いた場合、「発展的に統合された問題行動部会」という言い方になるのでしょうか。これは目的格の「を」になっていますから「S S N事業を統合し」として、文脈的につながっているんですよね。

(村田委員)

では、「統合した」の「た」を取ったら。「統合し、～部会とし」と「し」が続きますが。

(松永教育長)

「発展的に統合をし、『子ども・若者総合サポートシステム；問題行動部会』とし」と、また「し」になりますね。その辺をもう少し整理させていただきます。

(若林委員)

S S N事業が分からない人がいっぱいいると思います。S S N事業には、いくつも部会のようなものがあるのですか。それとも一つのものなのですか。

(松永教育長)

スクーリング・サポート・ネットワーク事業という一つの事業で、そこで組織を作っているいろいろな問題行動に対応してきたのが今までのS S Nです。それを更に広げて、問題行動だけではなく虐待や、あるいは青少年のいろいろな就活の問題や家庭の虐待の問題などを総合的にしたのが若者サポートシステムになるわけです。大きい組織を作り直し、その中の一つの部会として入れたと。

(若林委員)

今の説明を書いた方が分かりやすいような気がします。

(雲尾委員長)

子ども・若者総合サポートシステムを作って、その中に三条市S S N事業は問題行動部会として入ったと。

(松永教育長)

簡単に言うとそういうことです。その辺をちょっと分かりやすくします。

(雲尾委員長)

その問題行動部会でやっているのは、学校と家庭では解決が難しいケースのサポート会議をしているということですね。そういう趣旨で分かりやすく書いてください。

続きまして12ページ、(6)でございます。これにつきましていかがでしょうか。

改変した結果、下から2行目の「月ヶ岡養護学校の地域の特別教育の」と「の」が3つ並んでしまったので、また検討が必要かなと思うのですが。それから「拠点校である」といきなり書くと何の拠点校か分からないわけです。

(村田委員)

「拠点校」をとって、「月ヶ岡養護学校が担う地域の特別支援教育の」、とすれば、「の」が2つだったら何とか許せるような気がする。

(雲尾委員長)

そうですね。「拠点校である」を取って、「養護学校の」の「の」を取って、「が担う」を入れるということですね。「月ヶ岡養護学校が担う地域の特別支援教育のセンター的機能を生かし」ということでよろしいですか。

それから、飛びまして19ページでございます。「学校評議員制度の活性化」につきまして、修正はございますが御意見はございますでしょうか。

(村田委員)

「主な事務事業」の2行目ですが「意見を交わす場として、小中学校に設置されている学校評議員会の」と、学校評議員会が小中学校に設置されているということは、わざわざ書かなくてもいいのではないかと思います。「小中学校に設置されている」を取り、「意見を交わす場としての学校評議員会の運営を支援する」と、簡単にしてもいいのではないかと思います。

(若杉委員)

「小中学校に設置されている」はあった方がいいような気がしますけどね。

(村田委員)

高校にもあるから。

(雲尾委員長)

丁寧に書くなら「各小・中学校に」とするかと思いますが。

(村田委員)

それだったらいいと思います。

(雲尾委員長)

その前にある「今後実施が予定されている学校評価などの学校運営全般について意見を交わす場として」とは、学校運営に対する意見は交わしていないということなんでしょうか。

(高橋学校教育課長)

意見は交わしています。引き続きということで。

(雲尾委員長)

そうすると「今後実施が予定されている」は取った方がいいということですね。

(高橋学校教育課長)

はい。

(雲尾委員長)

では1行目「今後実施が予定されている」を取り、そして2行目「小」と「中」の間に「・」を入れるということではよろしいでしょうか。

そのほかよろしいでしょうか。

(村田委員)

事実なのでしょうけれども、一番下の「1か校だけ評議員会の開催がされていないことから」がすごく目を引く。1か校は評議員会が開催されていなくとも、何かほかの委員会、あるいは何かの会を作ってやっていると思います。

評議員会としてどうしてもやらなければならないということではないけれど、評議員会として名称をちゃんとしてほしいというきつと教育委員会の願いもここにあるのだろうと思います。1か校だけやっていないというとすごく強く感じるので、何か表現をもう少し強調しないような書き方を。

(高橋学校教育課長)

ここは村田委員のおっしゃるとおりで、これに代わるものをきちんとやっています。これだけ議論いただきましたので、ここを全文取らせてもらいたいと思います。

(雲尾委員長)

ただ、指標としては全校でやるというシートになっていますよね。そうすると、指標達成に向ける努力をしないことになってしまうので。

(高橋学校教育課長)

「1か校だけ」という部分について表現を変えさせてもらって。

(雲尾委員長)

「だけ」を取るということで、強さを和らげるくらいでいいのではないかと思います。

(高橋学校教育課長)

はい。

(雲尾委員長)

では、「だけ」を取るということでお願いいたします。

続きまして「スクールアシスタント制度」、20ページ、21ページでございます。

これについていかがでございましょうか。

(村田委員)

はい。「主な事務事業」の①ですが、アシスタントを「派遣した」と。下の方に「配置」という言葉も出てきます。「配置」の方がいいのではないかと思います。

(雲尾委員長)

では、①の「派遣」を「配置」に変えると。

(若杉委員)

「内容」の4行目も「派遣」となっています。こっちも。

(雲尾委員長)

「各小中学校にスクールアシスタントを派遣する」、こっちも「配置」ですね。

(村田委員)

続いて、「評価」の文言ですが「現状維持にとどまったが」と1行目にあります、その次に「効果としては、例えば学校図書館の飾り付けや、案内看板〜で、環境が良くなった」「図書館での〜落ち着きが増してきている」のところですが、「効果としては、例えば」を取り、「学校図書館の飾り付けや案内看板などを整備することで学習環境が良くなった。図書館での児童生徒の落ち着きが増してきているなど、効果は大きい」と、こちらの方に「効果」を付けたらどうでしょうか。

(高橋学校教育課長)

はい。

(村田委員)

これはもうどうしてもということではなく、検討していただければと思います。
(雲尾委員長)

文章としては、「効果としては、例えば」で、「例えば」で始まっているのに「良くなった」では余り、文章的にはおさまりが悪いですね。1行目は「効果としては、例えば」は取ってしまって、「とどまったが」で「学習環境が良くなった」の後に「また」ですかね。「また、図書館で児童生徒の落ち着きが増してきているなど、効果は大きい」でしょうか。

(高橋学校教育課長)

はい。

(村田委員)

続いて、その20ページの下から3行目ですが、「教頭先生や担任の先生との意見交換が大切である」で、何かものすごく突然出てくるので、これは交流会においてこういう話が出たということだと思います。ですから、「交流会においては、」その次にカギ括弧を付して教頭先生や担任の先生との意見交換が大切である、カギ閉めて、「他の図書室を～」と並べてそっちの方に移すといいと思うのですが。

(雲尾委員長)

そうですね。「教頭先生や」という表現は発言にしないとちょっと固いですね。「交流会においては」の後に教頭先生や担任の先生との意見交換が大切であるという形で意見としてカギ括弧として入れるということですね。

それから一番最後の行の「多いに参考となった」の「多いに」は「大いに」です。そのほかいかががございましょう。

(村田委員)

21ページの「今後の方針」のところで、下の3行に「スキルアップ」が2回出てくるのですよね。最後の「アシスタントのスキルアップに努めたい」を「アシスタントの力量向上に努めたい」か、ちょっと文言を変えた方が読みやすいと思います。

(雲尾委員長)

「スキルアップ」が2つあるのでどちらかを変えると。提案としては後半の方ですね。

(村田委員)

はい、それがいいのではないかと。私は「力量向上」と言いましたが「資質向上」でもいいと思います。

(雲尾委員長)

どちらにされますか。

(高橋学校教育課長)

「資質向上」に。

(雲尾委員長)

では、21ページ最後の「スキルアップ」を「資質向上」に変えるということをお願いします。

そのほかいかががございましょう。よろしいでしょうか。

それから22ページでございます。「地域・保護者・教職員が学校教育を共に考

える参画型システムの構築」ですが、これにつきましていかがでしょうか。

(村田委員)

「評価」の4行が1文ですね。2行目の「教育活動を推進している」で切って、そして、前にシートの文言の中で「今年度から」と入っていたと思いますので、「中学校区単位では」をとって、「今年度から小中一貫教育の推進に向け、全ての中学校区」と2つの文にした方が読みやすいと思います。

(雲尾委員長)

「評価」の2行目、「教育活動を推進している。」と。そして「が」と「中学校区単位では」を取り、「今年度から」を入れるという改案でございますが、よろしいでしょうか。

(高橋学校教育課長)

はい。

(雲尾委員長)

私が気になりますのは、学校評議員会をしているのは分かるのですが、「今後の方針」に「学校評議員会などを開催して、地域・保護者・教職員が、共に学校教育を考える機会ができています」となっています。学校評議員会はそもそもそのように機能しているのかが分からないのです。通常、学校評議員会は、学校評議員と校長、良くて教頭しかいない運営が多いです。そこに、管理職以外の教員が出席することが三条で行われているのでしょうか。

(村田委員)

全教職員が出ているということはないかもしれませんが、教務主任などが出ていることもありますよね。

(雲尾委員長)

地域・保護者・教職員が共に学校教育を考える機会として学校評議員会をとらえられるかどうかですね。

(高橋学校教育課長)

とらえさせてもらいたい。それは、本当にこの事業が異質だと思うのです。今までのものはすべてステージがきれいに整えられている事務事業の評価なのですが、この参加型システムというものだけは、私に言わせれば、これが一番いいシートだと思いますが、見えるものではないところを評価しようとしている。

これは、今まである参画型システムを1回集めておいて、その中で小中一貫教育推進というものに特化していこうという、今年はそういう位置づけなのかなと私は思います。そうしたときに、この小中一貫教育推進システムがうまく立ち上がっていったら、それで評価できるようになってくるのではないかなと今思うのです。その移行として学校評議員会や育成連絡協議会、教育を語る会などいろいろなものが今あるシステムをとらえている。

私たちもこのシートが一番うまく説明できないシートだと思います。できればこのシートをどう書いたらいいのかについて、御指導いただければなという気はしています。ただ、余り得体が知れない状況なもので、一番説明がしにくいという気持ちがあります。

(雲尾委員長)

教育を語る会や育成連絡協議会の場合、どの場合もそうですが、教職員があまりかかわっていないんですね。学校から担当が1人くらい行くかもしれませんが、多くの教職員がかかわっているわけではないという中で、とりわけ学校評議員自体元々趣旨が違うわけです。

校長の権限強化の趣旨であって、学校評議員会自体を開くことが義務づけられていない。評議員会の席上で発言をすることによってほかの評議員にもいろいろな意見が伝わるわけですね。だれがどういう意見を言ったか、それがどのくらい採用されたか、採用されていないかということによって、校長と評議員との人間関係や、ほかの評議員との関係が悪化することもある。単独で校長は評議員と話を聞いて、その中で自分の中で取捨選択をしてもいいというシステムになっているはずなのです。開かれた形でも学校評議員会にすること自体は構わないわけですが、そういう意味でいうと趣旨が少し違うだろうということが元々根本にあるのですね。

仮にそういう形でやったとしても、評議員は誰を選ぶかは校長の判断ですから、必ずしも地域の方が入らない可能性があるし、保護者の方が入らない可能性もある。そういう、システムの的に保証されていないものがこの中に入ってくること自体、違和感があるわけです。

「目的」では「学校・地域・保護者」とあるわけですが、結局学校という主体がこういうシステムになったときに、管理職は参加してくるけれどもそれ以外の教職員の姿が見えない。実際、これから協議会等の中で多くの教職員がかかわってくれるだろうということでこれからの事業は進んでいくと思うのですが。

結局最初に帰りますと、育成連絡協議会や教育を語る会であるならある程度のこの参加型システムの中に位置づくだろうとは思いますが、学校評議員会自体はこの中に位置づけにくいかなということはあるんですね。ただ、実際としてそのようにちゃんと学校評議員会は運営されているということであるならば、それはそれでいいのですけどね。

(若杉委員)

参考意見として、私も以前学校評議員をしていたのですが、そのときは校長先生、地域の自治会長さん、あとPTA役員と。やっている中でどういう話が出てくるかというと、学校の教育の進め方等こういう方針でやっていますという話は学校側から出ます。また、その中で心を育てるにはどうしたらいいかという話の中で、じゃ、ヤギを育ててみようと。自分一人では動かしにくいような、小動物じゃなくて大動物を。言うことを聞かない動物を育てる中で、嫌でも自分の番がくれば世話をしなければならぬ。そういうものを育てて、子どもたちの心を育てようとヤギを飼います。今度、餌がないでしょう。餌は保護者が持ってくるし、そうすると自治会の人たちが協力しましょうと餌を持ってくる。

育成連絡協議会でも、文化祭のときなどに、うちらも何か参加して昔の遊びでもやってやろうかというような話を学校評議員会等に出しているのですけどね。

授業とか教育、学力に対する話は出てきませんが、地域で子どもたちを育てようという話はやっぱり出てくるのですよね。いいような気がします。

(雲尾委員長)

法制度上は置いておいて、実体としてこのように運営されているという趣旨で理解させていただくということではよろしいですか。

そのほかございますでしょうか。21 ページにつきましてはよろしいでしょうか。ありがとうございました。では、ここで学校教育課の部分が終わります。

「1 幼児教育・学校教育の充実」(1)について

(村田委員)

すいません、小中一貫教育推進については、最初文言を変えた方がいいというものではなかったわけですが、改めて読んでみまして。

(雲尾委員長)

では、2、3 ページにつきまして御意見があればお願いします。

(村田委員)

2 ページの「主な事務事業」①の後段に「小中一貫だより、ニュース」という文言が出てきます。3 ページに「小中一貫教育だよりの発行」が出てきます。これは同じものを意図しているのではないかと思います。余り省かないで「教育」を入れたらどうかと思います。

それから、3 ページの4 段目に「両中学校区推進協議会」、これも簡略にしてあります。その2 行下にまた同じものが出てきます。2 行下はそのままでもいいと思いますが、ここは「両中学校区における小中一貫教育推進協議会」と書いた方がいいのではないかと思います。

続いて、「これに基づき」の一文で「プロポーザル方式による基本設計・実施設計業者」となっています。それから進みますと「次年度からの具体的な基本・実施設計」になっています。基本設計と入れて同じにした方がいいのではないかと。

それから「協議が行われる体制づくりが図られた」、「協議を行う」としたらいいのではないかと。

この下にシートにあった文言が省かれて出てこないのですが、モデル中学校区以外の中学校区においても推進協議会が整備されて一体となった体制が構築されているということが、2 ページの②にも出てくるわけです。「評価」のところにもシートにあった「更に、モデル中学校区以外の」というところを生かして書いておいた方がいいのではないかと思います。上段はモデル中学校区のことだけに触れられているような気がするものですから、そう思いました。

それから、ここは全部そうなのですが、「学校・保護者・地域」という使い方と、「学校・家庭・地域」という使い方が出てくる。内容によって違う使い方をされているのかなと思いましたが、この場合は「学校・家庭・地域の連携を強化する」「学校・保護者・地域の連携を強化する」、どっちがいいのかななんて考えたのですけども。

(雲尾委員長)

以上ですか。6 点ございます。

1 点目、「小中一貫だより、ニュース」につきましては。

(嘉代小中一貫教育推進室長)

これにつきましては、正式にした方がいいのではないかという御指摘でございますのでそのように手直しをさせていただければと思います。ただ、それぞれ中学校区において名称が異なっておりますので、「小中一貫だより」で統一させていただければと考えています。

また同様に、お話のございました点につきまして、正規の形で直すことが適当でございますので、そのようにさせていただきます。

最後のお話にありました保護者と家庭の関係でございますが、「保護者」で統一いただければと思います。

(雲尾委員長)

3 ページの 4 行目の「両中学校区」の両ですね、これについて修正すると。それから 3 点目は「基本設計・実施設計」というところがございますが、「次年度から」の方も「基本設計・実施設計」にすると。

それから 4 点目、その次「協議が行われる」を「協議を行う」に変えると。

そして 5 点目は今後の方針のところ、「モデル中学校区の今後の取組を参考にしながら」の前のところに「推進協議会が整備」というものを入れるということ。

そして 6 点目は、これは全体を通してになりますけれども、例えば主な事務事業の②は「学校・保護者・地域」と書いてあり、今後の方針のところは「学校・家庭・地域」と書いてあると。このような表現について統一を図っていくということです。

小中一貫教育推進室についてはほかによろしいですか。それでは小中一貫教育推進室と学校教育課の担当部位については終了いたしました。

休 憩 午前 10 時 35 分

再 開 午前 10 時 45 分

「2 学校と家庭・地域との連携の推進」(1)、(2)及び(4)について

久住子育て支援課長から説明あり

(雲尾委員長)

それでは 15 ページからですが、「三条版放課後子どもプラン」につきまして、いかがでございましょうか。

「評価」の中で、「平成 22 年度初旬」という言葉があるのですが、年度の初旬とはどういう範ちゅうを指す言葉でしょうか。

(久住子育て支援課長)

4 月、5 月というか。「早々に」とか、そういう感じでしょうか。「年度当初」にとか。

(雲尾委員長)

「平成 22 年度の早期に」がいいでしょうか。そうしたら「は」はいらないですね。「早期に開設できる」ということでいいでしょうか。「評価」の 4 行目、「平成 22 年度の早期に開設できる」と。

それから「今後の方針」なのですが、「裏館小を早期に開設できる」となると、何か小学校を作るみたいなので、「裏館小での開設を速やかに進めるよう取り組んでいく」でも。

(久住子育て支援課長)

分かりました。

(雲尾委員長)

そのほかよろしいですか。続きまして、16 ページでございます。「家庭教育講座の開設」につきまして、いかがでございましょうか。

(村田委員)

「今後の方針」の2 段目ですけれど、「家庭教育力の」は「の」が入った方がいいですよ。 「家庭の教育力の」と、のが2 つ出てきますけど。

(雲尾委員長)

そのほかはいかがでしょう。

(村田委員)

その次の段落の「また」のところですが、真ん中に「子育て支援センター・すまいるランドなど、主に乳幼児期の子どもを持つ保護者を対象にした子育て講座などを実施し」になっていますよね。子育て支援センター・すまいるランドは場所ですよ。 「子育てセンター・すまいるランドなどにおける、主に乳幼児期の子どもを持つ保護者」とした方がいいのではないのでしょうか。

(久住子育て支援課長)

「などにおける」ですね。はい。

(雲尾委員長)

すまいるランドは子育て支援センターの愛称でしたっけ。

(久住子育て支援課長)

子育て支援センターの一つです。その中の大きい施設となります。

(雲尾委員長)

すまいるランドが、子育て支援センターが幾つかある中の拠点施設ということであれば、両方書かないといけないわけなのですが、すまいるランドは子育て支援センターに含まれるのですね。

(久住子育て支援課長)

はい。大きい意味では含まれます。

(古川教育部長)

「すまいるランドを初めとする子育て支援センター」とか。

(雲尾委員長)

そういう表現の方がいいですね。「すまいるランドを初めとする子育て支援センターにおける」と。

(久住子育て支援課長)

はい。

(雲尾委員長)

そのほかはいかがでしょう。

「評価」の講演テーマの幼児期のところですが、「子どもの”できる力”」の、最初のコロンの向きが逆ですね。前の方を変えてください。

(雲尾委員長)

評価の中で、「できる」が平仮名で「出来ない」は漢字です。幼児期だから平仮名、就学期だから漢字にしたのかもしれませんが、そういう形でやっているなら、それはそれでいいですが。

「家庭教育講座の開設」につきましてはよろしいでしょうか。

それから、飛びまして18ページでございます。「子どもの生活習慣定着の取組」です。これにつきましてはよろしいでしょうか。

これは、事業名は変えられるのでしょうか。

(久住子育て支援課長)

変えられます。

(雲尾委員長)

そうしたら、「基本的」という言葉を入れて「子どもの基本的生活習慣定着の取組」としていただきたい。これだと、どんな生活習慣でもいいことになってしまう。夜更かしな生活習慣を定着させることもありえてしまいます。

(久住子育て支援課長)

はい。

(村田委員)

「内容」に「あいさつ運動」や「家庭教育手帳を配布」が出てきます。評価等では、あいさつ運動や家庭教育手帳の配布がどうであったのかが全く出てこない。内容の中に入れているのですから、これについてどこかで触れた方がいいのではないかなと思います。どこにどう入れるという、そこまでは考えていないのですが。

(久住子育て支援課長)

すいません、訂正をするのを忘れていました。前は家庭教育手帳が配布をされていたのですが、文部科学省から来ていたのがなくなって、独自のパンフレットなどに切り替えた。内容を変えないと駄目だったものを、前のままにしておいたというところです。「内容」の「家庭教育手帳の配布等」を取らせていただきたいと思います。

(雲尾委員長)

平成20年版が最後ですね、家庭教育手帳の配布は。それ以降はPDFファイルで文部科学省のホームページから落とす形になっていますので、配布するとなるとそれを市で印刷して配布するという形態になります。

(久住子育て支援課長)

そうですね。来年度以降ですが、これに見合うよううち独自の家庭教育の手帳のようなものを作ろかなという計画もプランの中にはあるので、そういうことができるようになったらまた載せるということで、今回はこれを取らせていただきたい。

(雲尾委員長)

どう取りますか。

(久住子育て支援課長)

例えば、「市で作成したパンフレット」か「啓発パンフレットを」とか。

(雲尾委員長)

「啓発活動に努める」で「啓発」が続きます。そうしますと「各種資料を」ですか。「家庭教育手帳」を取って「各種資料を配布し」に。

ちなみにまだ県の生涯学習推進課に家庭教育手帳が200部ぐらい、倉庫からごそと出てきたみたいで。現物はあるという話です。

それを元に今、新潟県の県庁のホームページで、モバイル版として家庭教育手帳の内容やいろいろな家庭教育に関するコラムを12月ぐらいから配信をスタートする予定です。毎日更新するために、委員1人が1か月交替でやっていきます。私は5月担当なのでまだ急がなくてもいいのですが。そんなこともありますので御利用いただければと思います。

本題に戻りまして、18ページ、ほかにはよろしいでしょうか。

(村田委員)

「外部の方からの主な意見」や「市の対応」がここにきて出てきますよね。この後にもあと2か所くらい出てくるところがあったかと思います。外部からこういう意見があって、そして自前のパンフレットを作成するのだということは、「今後の方針」にもまた出てくるわけですね。別に書かなくても分かるわけです。わざわざいらないのではないかと思います。

(雲尾委員長)

「市の対応状況」は、いらないということですか。

(村田委員)

「外部の方の意見」もいらないのではないかと思います。私たちがこうやって何か言っていることも外部からの意見になっているのではないかと思います。そうやって書くと全部にそういうものが出てくるのではないかと思います。

(雲尾委員長)

提言的な意見を取り上げているという趣旨だと思うのですが。

(池浦教育総務課長)

委員長の言ったとおり、この報告書は出来上がって市民に公表するときに、間違いなく外部の方の御意見を頂いた中で作っていますよと。こういった御意見を頂いたのかをお示しさせていただくというものです。

(村田委員)

分かりました。

(雲尾委員長)

そのほかよろしいでしょうか。

(村田委員)

「今後の方針」のところは、パンフレットを活用した啓発活動の一層の推進について書きたいと思いますが、この文言では小学校での子育て講座時、保育所における子育て講座や3歳児健診時に何を配布・説明したのかなという疑問が出てきます。その次に、「普及・啓発資料として、市で啓発パンフレットを作成し上記講座や

健診時に配布・説明を行う」とあります。ここもちょっと。

(雲尾委員長)

一文にしましょうか。

(村田委員)

書いてあることは分かるのですが、ここはもう一度、文章を考え直した方がいいのではいかなと思います。「早寝・早起き・朝ご飯」全国協議会事務局からの啓発パンフレットのほかに、市独自の啓発パンフレットを作成し、啓発活動の一層の推進を図る。これを一番最初に上げる。

そして、パンフレットの配布の場は、小学校での子育て講座と1歳6か月健診のことはもう21年度実施で言っているの、「それに加え、保育所における子育て講座、3歳児健診時に広げ、啓発活動の拡大を図る」とか、そういう表現の方がいいのではないかなと思ったわけです。

(雲尾委員長)

段落をまず入れ替えて、啓発資料を作るということを先に書くと。それをいつやるかということについて、今年度の子育て講座は1歳6か月健診時が書いてあるので、それに加えて3歳児健診にも行うという形で書き換えていただくということによろしいですか。

(久住子育て支援課長)

はい、分かりました。

(雲尾委員長)

そのほかはよろしいですか。では子育て支援課の担当部分は終わりました、生涯学習課担当部分についてお願いします。

「2 学校と家庭・地域との連携の推進」(3)

「3 生涯学習・スポーツの推進」(1)～(5)

「4 芸術・文化の振興と継承」(1)～(4)について

金子生涯学習課長から説明あり

(雲尾委員長)

まず報告書17ページですね。修正版5ページのところ。「子どもと親の読書活動」についてです。いかがでございましょうか。

(「なし」の声あり。)

よろしいでしょうか。では飛びまして、今回修正はありませんが、24ページから生涯学習課の担当部分は始まっています。修正がなかった24ページ、25ページについては何かございますでしょうか。

(村田委員)

24ページの「評価」が4行にわたっているの、3行目の真ん中辺りに「減少した結果、43,900人の」とありますが、「減少した」でいったん切ったらどうでしょうか。

(金子生涯学習課長)

「減少した。その結果」ということで。

(村田委員)

それから、2行目から「子育て関連講座を子育て支援課に移管したこと、成人対象講座や大学との連携講座の減少などにより」を、「何々したこと、何々したことなどにより」と、くどいようだけど両方に「したこと」とした方が落ち着きがいい。

「成人対象講座や大学との連携講座が減少したことにより」と。

(雲尾委員長)

「連携講座の」が「連携講座が減少したことなどにより」と。そして「参加者が減少した。その」ですね。

(雲尾委員長)

24 ページ、25 ページについてはいいでしょうか。

(村田委員)

25 ページ、「現代的な課題などの学習」の「今後の方針」の一番下に「今までとは異なった視点での課題を見つけ、講座化していけるよう検討したい」と。ごもともだと思うのですが、「今までとは異なった視点での課題を見つけ」という辺りに、何か方策的なものがあれば一言入れてもらった方がいいのではないかなと思いました。

(金子生涯学習課長)

今までやっていたことは環境や国際や情報です。ここに書いてあるように男女共同参画もある程度取り上げているので、来年度計画の中で検討していきたいと思うのですが、今の段階では具体的な案はありませんので、このとおりにさせていただきたいと思います。

(村田委員)

結構です、はい。

(雲尾委員長)

それでは 26 ページ、「学習成果を活かす仕組みづくり」についていかがでしょうか。

(村田委員)

ここも「今後の方針」の一番末尾ですが、人材バンクの周知・活用として、ずっと前からいろいろ努力をされていると思うのですが、改めてまたここに「周知・活用を進めたい」と出てきています。こちらも今お持ちのそのための方策があれば一言入れてもらったと思うのですけれど。

(金子生涯学習課長)

自主的講座を企画して活動をしていくわけですが、その中で人材バンクに登録した人から講座を担当してもらい、講師となってもらいということを考えています。

(村田委員)

講師になってもらってやるのですよね。そういう方々が講師になって充実しているの、人材バンクを是非活用してほしいということをお小中学校に対して周知していくわけですね。

(金子生涯学習課長)

小中学校に対してですね。

(雲尾委員長)

「小中学校に対して人材バンクの周知・活用を進めたい」という文言がずっとあるけれども、ずっと周知されていないのかという話ですよ。

(金子生涯学習課長)

いつも冊子を配布したりして、その中で使ってくださいということは毎年やっているのですが、引き続きということです。

(雲尾委員長)

実際問題としては、毎年それをやっても効果がないということは、見てくれているのか、開いても役に立たないと思われているのか、その辺のところは具体的には分析されていない。

各学校へは、1冊配られているのですか。

(金子生涯学習課長)

そうですね。

(雲尾委員長)

そうするとその1冊が校長室の本棚に入ったまま出てこないとか。例えば、総合学習の担当者に直接渡して図っていただく。だれに渡しているかがやはりポイントになると思います。見ていただいて実際に活用していただくということになると、多分校長先生に送っても余り効果がないということになるのではないかと思いますのでどうでしょう。

(金子生涯学習課長)

「人材バンク名簿の配布方法を工夫するなどして、市内小中学校に対して人材バンクの周知・活用を進めたい」ということでよろしいですか。

(村田委員)

はい。

(雲尾委員長)

ここはよろしいでしょうか。続きまして27ページ「生涯学習施設の整備・充実」でございます。幾つか修正が入っていますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり。)

(雲尾委員長)

続きまして29ページ、「生涯学習指導者の育成」でございます。いかがでございますでしょうか。

(村田委員)

「評価」の一番末の言葉「ボランティアの研修機会や活動機会も増やしていくことが必要になってきている」と。これに対しての方策が「今後の方針」の中にある。「今後の方針」の中にその方策を記載してほしいと思うのですが、いかがでしょうか。

ボランティアが自主的に活動できるように仕掛けていきたいと、ここがそれに答えることになるのかなと思いますので、もうちょっと言葉を費やしてもいいと思う

のです。

(金子生涯学習課長)

「働きかけていくと共に研修機会、活動機会を増やしていきたい」ということを。を加えさせてもらいたいと思います。

(雲尾委員長)

「今後の方針」の中で、「ボランティアの意識と、事務局の意識に乖離が生じないように」と。そもそも問題があることなのですか。

(金子生涯学習課長)

事務局としては何とか自主的にボランティアとして動いてもらいたいと思っています。ボランティアの方では、生涯学習課でいろいろな部分をセットして、そこに行くというようなどころがあると。その辺、もう少しボランティア自ら動くような形を取りたいというのがうちの考え方です。

(雲尾委員長)

ボランティア講座を受講しても、受講だけやって受け身というか、ボランティア活動もセットしてほしいという感じなわけですね。

(金子生涯学習課長)

そうです。

(雲尾委員長)

そういう趣旨は、この文章だけでは分かりにくいですね。「ボランティアの意識と、事務局の意識に乖離が生じないよう」といったときに、この文章だと事務局がボランティアの行動を抑制しているようにも読めるのですよね。相手は動きたいけれど、事務局が余り勝手なことをやってくれるなと思っているので、事務局に働きかけるとも読めるわけです。そのところがどう表現するかですね。

(金子生涯学習課長)

すいません、これはちょっと訂正させてください。

例えば、ITリーダーは、生涯学習課で育成して公民館で活動してもらおう。漢学の里ボランティアも生涯学習課で育成して漢学の里、諸橋記念館で活動してもらっている。私ども生涯学習課が育成したボランティアと、各施設で要求するボランティアの活動が、少しミスマッチのようなどころもここに入ってきます。

例えば、漢学の里のボランティアですと、ボランティアの意向としては展示解説や諸橋先生の生涯をお話するボランティアをしたいのだけでも、施設としては清掃活動や修繕というものもしてもらいたいようなどころも乖離の一つです。

(雲尾委員長)

その各公民館や記念館に行った方々の研修を、更に生涯学習課で行われているということですか。

(金子生涯学習課長)

それは各施設でやってもらおうということにしてあります。

(雲尾委員長)

「評価」の「ボランティア養成講座の参加者増加に伴い、ボランティアの研修機会や活動機会も増やしていくことが必要になってきている」は、これは生涯学習課

ではなくて、各施設ということですね。

(金子生涯学習課長)

そういうことです。

(雲尾委員長)

各施設に事務移管するので、各施設で先ほどの研修機会や学習機会の充実をしてもらうことがここに書かれる必要があるわけですね。

後は修繕や環境整備のボランティアは、生涯学習課の養成講座の内容にはないわけですが、各施設は欲しいと言っているの、今養成している人たちにそれをやってもらうのか、それとも別立てにするのかということになってきますね。

(金子生涯学習課長)

そういった意味で、各施設と連携しながらという文言を入れさせていただいています。

(村田委員)

施設がそれぞれ行うボランティアの研修の中に、展示等していくにはほかの清掃や整備も大事だということが入ってくるのでしょうか。そこで、必要性に目覚める方とか、新たにまた参加するという方も出てくるかもしれませんよね。そんなことも期待しながら、各施設でのボランティアの研修機会を増やすということを下のところに入れてもらえばいいのではないかと思います。

(金子生涯学習課長)

「研修内容の検討及び研修機会の充実」と入れさせてもらうということによろしゅうございますか。

(村田委員)

「ボランティアの意識と事務局の意識に乖離を生じないよう」は、ボランティアをやりたいのに事務局がセーブしているという意味にも取られかねないと委員長がおっしゃいました。これはどうしてもいりますか。これは取って、「ボランティアが自主的に活動できるように、各施設の事務局と生涯学習課が連携しながら」と。すぐ「仕掛けていきたい」とくると変なので、そこをちょっと。

(金子生涯学習課長)

「連携しながら研修内容の検討及び研修機会の充実を図る」と。

(村田委員)

そのようにしたらどうでしょう。

(雲尾委員長)

ということで「生涯学習指導者の育成」はよろしいですか。あとは4-(1)の指定文化財、文化財についてですが、こちらについて31ページ以降はいかがでございませうか。31、32、33、34ページですね。

(「なし」の声あり。)

(雲尾委員長)

よろしいですか。それでは、各項目は終わりました。

全体を通して何かまた御意見等ございましたら、出していただければと思います。よろしいですか。

だいたい修正されましたが、1-(3)「刃物(ものづくり)教育、科学教育の実施」の題名について改変があるということと、11ページの最初の2行の部分も大きな改変があるということで、この2つについては特に修正の中で調整を図っていただきたいと思います。

以上で、次第2番の事務の点検及び評価についての議題を終了いたしますので、進行を事務局にお返しいたします。

(3) 閉会

古川教育部長から、次のあいさつあり

今回最終となります第2回三条市教育事務点検評価委員会の閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

委員の皆様には、お忙しい中、私ども三条市の教育に関する事務の点検評価について御精査を頂きまして誠にありがとうございました。

正直申しまして、私どもにとりまして点検評価を受けるということは、余り前向きな気持ちになるものではございません。しかし人間、自分を客観視することが難しいように、組織にとりましても自らを評価するという事は難しい面がございます。皆様の力添えを得まして私どもは成すべきところ、また頑張ったところなども確認することができました。これらを今後の教育事務に十分生かし、子どもたちを始め、三条市民の幸福な暮らしに更に貢献をしてみたいと存じます。

本委員会は2回の開催でございましたが、その前後に多くの資料を御精査いただきまして御評価を頂くなど、回数以上の御苦勞をおかけしたと承知しております。重ねて厚く御礼を申し上げます閉会のあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。

閉会 午前11時37分